

SHIRAKOBATO

しらこぼと



SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

1992. 12

WILD BIRD



NO. 103

日本野鳥の会 埼玉県支部

出かけて見ませんか 武蔵丘陵森林公園

冬期の探鳥地として、年2回の支部行事を開催している森林公園については、支部報'91年12月号ですでに紹介されていますが、今回はいつもの探鳥コースを離れて、北口からのコースを紹介します。名付けて“秘境北口コース”。

はじめに

北地区の地形は、点在する池沼と北向斜面の多い地区で、昔から人の手の加わったアカマツやクヌギ、コナラを主体とした二次林が広がっています。南地区や中央地区のような庭園やレクリエーション施設がなく静かな雰囲気保たれ、訪れる人の少ない12月～2月は鳥たちの観察にはもってこいのシーズンといえます。

自然探勝路を経て天神沼へ

入口でガイドマップを必ず手にし、自然探勝路へと進もう（マップがないと場所が判らなくなります）。落葉にうずもれた小径は吸い込まれる様に森の奥へと続いています。藤蔓のからんだ木や朽木も多く、秘境の雰囲気を盛りあげてくれます。先を急がずにじっと待ってみよう。カラ群の混群とコゲラ、アカゲラが近くに来てくれます。ここでの観察は開園と同時に入り、じっくりと観察すること

をおすすめします。

落葉で滑らぬよう斜面林を登ると道は広くなり、天神沼までなだらかな下りになります。

北展望所にも寄ってみてください。ひらけた高台から農耕地や市街地が望め、タカ類を見ることができるでしょう。

道わきの水たまりで、ホオジロやカシラダカ、アオジ等の水あびが見られ、何度もカラ類の混群に出あうでしょう。プロミナにヤマガラが止まった事やルリビタキが足下までしてくれた事もありました。林の中で落葉がサゴソ、ツグミの仲間です。アカハラ、シロハラもみられます。園外の農耕地にも眼を配りながら竹林を過ぎると天神沼に着きます。マガモ、カルガモを観察しながら他のカモも探してみましよう。

柳谷沼・街路樹見本園へ

バスルートに出ないで柳谷沼へ向かいましょう。この沼付近は、コゲラ、アカゲラが最も

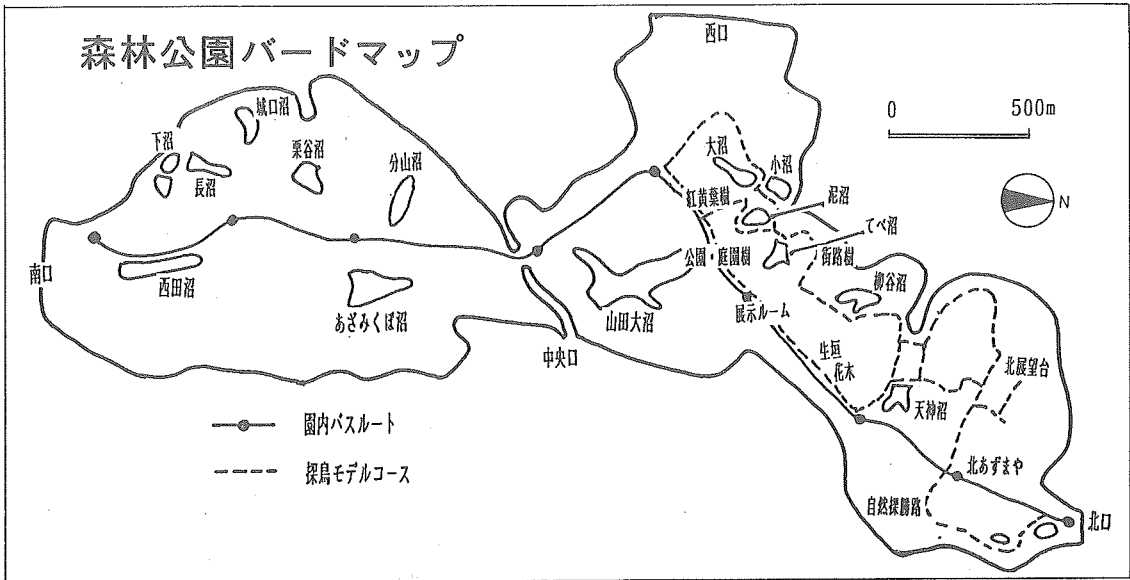
冬の森林公園の鳥達（探鳥会記録）

87年1月以降

種	類	種	類	種	類
1.	カツブリ	21.	ノスリ	41.	ツグミ
2.	カワウ	22.	チュウヒ	42.	ウグイス
3.	ダイサギ	23.	コジュケイ	43.	キクイタダキ
4.	コサギ	24.	キジ	44.	エナガ
5.	アオサギ	25.	キバト	45.	ヒガラ
6.	オシドリ	26.	アオゲラ	46.	ヤマガラ
7.	マガモ	27.	アカゲラ	47.	シジュウカラ
8.	カルガモ	28.	コゲラ	48.	メジロ
9.	コガモ	29.	キセキレイ	49.	ホオジロ
10.	トモエガモ	30.	ハクセキレイ	50.	カシラダカ
11.	ヨシガモ	31.	セグロセキレイ	51.	ミヤマホオジロ
12.	オカヨシガモ	32.	ビンズイ	52.	アオジ
13.	オドリガモ	33.	ヒヨドリ	53.	カワラヒソ
14.	オナガガモ	34.	モズ	54.	ウソツメ
15.	ハシビロガモ	35.	ミソサザイ	55.	シメ
16.	ホシハジロ	36.	カヤクグリ	56.	スズメ
17.	キンクロハジロ	37.	ルリビタキ	57.	ムクドリ
18.	ミコアイサ	38.	ジョウビタキ	58.	カケ
19.	オオタカ	39.	アカハラ	59.	ハシボソガラス
20.	ハイタカ	40.	シロハラ	60.	ハシブトガラス

観察頻度高い ← ◎・○・△ → 低い

森林公園バードマップ



多くみられ、ドラミングを充分楽しませてくれるでしょう。チョウゲンボウや白の翼の下面を見せて飛び出したオオタカを見たのもここでした。沼は小さく、水面を逃げていくカモ達を見ながら街路樹園へ進みます。百種余りの街路樹が整然と植えられています。エナガ、メジロ、垣根の茂みにはウグイスを見ることができるでしょう。杉や桧があったらキクイタダキやヒガラを忘れずにさがしてみましょう。

ここまで30種類以上観察した人やカモの種類をもっと見たい人は、山田大沼へ向かうのがよいでしょう。まだ冷えた体を暖めるなら植物園の展示ルームが最適です。自然への興味をひろげる展示や催しも楽しめます。

小沼・大沼を経てバスルートへ

てべ沼、泥沼、小沼、大沼と小さな沼にそって進みます。カモ類は期待できませんが、山あいの周囲が暗くなっている泥沼では、沼に流れ込む湿地が鳥の水場になっていて、アオジ・ビンズイ・ツグミの仲間が観察できます。ここでもカラ類やアカゲラの鳴き声が楽しめます。小沼・大沼を経て急な山道を登ると西口からの一般園路となり、展望もひらけて奥武蔵・秩父連山が望めます。

平坦な道をバスルートに出て山田大沼に下り、じっくりカモを観察してコースの仕上げにしてもよいでしょう。記録にある10種類以上のカモはすべてこの沼で観察されています。

北口に向かう左側には、生垣や花木の見本園が続きます。観察しやすい所なので、ルリビタキ、シロハラ、ジョウビタキが一度にプロミナに入った事もありました。松林ではビンズイが見られます。

3時近くになると気温も下がり体も冷えて来ます。まだまだ見たいポイントがあります。次の機会の楽しみに残して帰路につきましよう。

おわりに

北口からのコースは交通の便の悪さを除けば、冬場の魅力あふれる身近な探鳥地です。広い園内は一日では廻りきれません。何度も足を運びあたらしい発見を楽しんで下さい。探鳥会記録は60種類ですが、開園以来の記録では、120種類が記録されているとのことです。

リストの頻度マークは筆者の観察も加えたもので、鳥種は探鳥会での観察記録にとどめています。

<北口への交通の便>

JR熊谷駅から東松山行バスで約30分、公園北入口下車で徒歩5分。土・日・祝日は公園北口行もあります。(ただし1日2~4往復)南口からは園内バス利用で北口に行けます。

バス問い合わせ、東武バス熊谷営業所
0485-21-3560。(内藤 義雄)

さえずりコーナー

環境とエネルギー

角田真喜子（浦和市）

いつも電気のスイッチを消し忘れるヒトと永年暮らしている私は、10月号の「省エネのすすめ」を読んで、世間にはこんな男性もいるのだと感心。

でも、読んでいるうちにだんだん息苦しくなってきた、暖房も節約して、寒い冬の夜シャワーだけじゃ、夕ご飯を食べたら、ふとんにもぐりこむ事になりそうだと思います。

あのグラフの国別の1人当たりのエネルギー消費量を見ても、アメリカは日本の3倍近い数ですし、暮らしの中で使うエネルギーをどう考えたらよいのか、環境を破壊しないエネルギーとはどんなものか、少し勉強してみようと思い、出会ったのが、岩波新書の『人間生活とエネルギー、エネルギーは不足しているか』押田勇雄著です。

今から7年前に出版された本で、統計などは少し古いようですが、人類の歴史とともに変化してきたエネルギーの増大、現在新しいエネルギーとして研究されている核融合や原

子力発電、太陽熱利用の未来など、とても面白く、問題はどこにあるのか、考え方の方向が見つけれられたように思います。ぜひ皆様にもご一読をおすすめします。

環境を守るための私のささやかな実践は、

- ①毎日のゴミをへらし、リサイクルのネットにのせる。
- ②地方選挙、国政選挙など、必ず投票する。
あのリゾート法の成立に賛成した党、反対した党を良く見究める。探鳥会に出かけて、選挙に行かない人はいませんか？
- ③環境破壊の最大のものは戦争。ベトナムやイラクの戦争でよく分かったので、世界のどんな地域の武力紛争にも反対する。
- ④毎年バードソンのスポンサーとなる。今年は仏沼を買い取るためのバードソンでした。お金がストレートに生かされるのがうれしい。第1回のバードソンの収益で鶴居村のサンクチュアリを作ったと聞きました。釧路湿原でひっそりと生き抜いてくれたタンチョウ。私の「ツルへの恩がえし」です。

地鳴きコーナー

始めませんか＜野生生物応援貯金＞

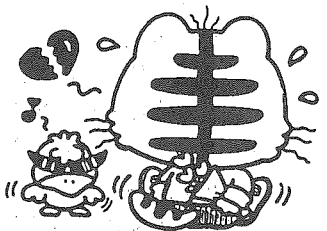
小林みどり（藤沢市）

野生生物といってもいろいろありますが、私たち夫婦が特に応援しているのは＜ツバメ＞と＜クジラ＞。ツバメ、クジラが1勝するたびに、財布の中の1円玉、5円玉、10円玉を貯金箱に投入。ある程度たまったら、自然保護団体に寄付して、ホンモノの野生生物を応援してもらう、というものです。1回の貯金額はわずかですが、＜ヒト＞に勝ったときなどは、つい、はずんでしまいます。2年で7000円ほどたまり、貯金箱も満杯になりました。タイミングよくツバメが優勝しましたので、これを記念して、全額を埼玉県支部に寄付しました。

ところで、来年からクジラがいなくなります。ツバメ1種だけでは心もとないので、今、代わりの応援対象生物を選定しています。＜トラ＞の一種独特な雰囲気はイマイチ趣味じゃないし、＜ライオン＞は強すぎてつまらないし、＜タカ＞か＜ヤギウ＞が妥当なところかな……

プロ野球ファン、特に野生生物チームファンの皆さん、来シーズ

ンから、応援貯金を始めてみませんか。ベナント戦の楽しみも増えるし、ちょっとは自然保護にも役立つし、一石二鳥ですよ。



- 2月 川越市下広谷市民の森で大きな巣を見つけた。カラスの巣ではないか?と思う。
- 4月 ツミのつがいを見かけた。
- 5月25日 オナガ20羽程がツミのオスを追いかけてモビング。ツミはキキキと鳴いて逃げる。巣があるのではないかと観察を始めた。
- 6月22日 2月に見つけたミズキの巣の中にヒナ2羽を確認した。オスが餌を運んできて、巣の中にいたメスにキキキキキキと呼びかけ、メスが出たのを見て、巣の中に餌を運び入れた。
- 6月23日 オナガの鳴き騒ぐ声でツミのいる事が分かるようになった。オスは1時間30分に1回くらい餌を運んで来る。巣から10mほど離れたミズキの木でメスに餌を手渡す。すぐには巣に近づかない。
- 7月4日 ヒナ4羽確認。20cmほどに成長し巣の上に出てきた。1羽は頭部白くまだウブ毛。2羽は巣の近くの枝にとまっていた。午後3時頃親鳥給餌に来た。この頃になると、巣での給餌はメスがほとんどで、オスの姿はめったに見られなくなった。

- 7月6日 ヒナ5羽を確認。感激。1羽を巣に残して木の枝に移動。
- 7月7日 1羽残ったヒナが気になったが、メスが給餌に来た。近くの木にいたヒナたちも餌を貰いに来た。
- 7月8日 巣のそばにヒナ2羽。1羽はまだ頭部が白く、巣の上にいる。親鳥が近くの木の上でしきりに鳴く。ヒナはビュビュ・・・と6~10回続けて単調に鳴いて答える。
- 7月9日 全員巣立ち。5羽が5mほど離れたコナラの木にとまっているのを確認。
- 7月12日 ヒナ1羽、親1羽が近くの枯れ松に。コナラの木にも2羽。他は見つけられない。
- 7月23日 カラス3羽が巣の枝をくわえて落としている。巣は跡形もなくなり、ツミの姿はこの日から見つからない。



7月6日 鈴木俊明撮影

白頭鷺の英名講座 第4回

カルガモ Spot-billed Duck

丸の内のビル街で繁殖し、一躍有名になったカルガモくん。交通整理のお巡りさんに守られて悠々と道路を横断。本当に優雅なカルガモくん。

英名は、Spot-billed Duck (スポットビルド ダック)、即ち“くちばしにスポットのあるカモ”という意味です。なるほど、カルガモの識別のポイントは、正にそのくちばしにあります。黒いくちばしの先端に、明瞭な黄色の部分、スポットがあります。特にメスの識別には、この黄色のスポットが、かなり有効です。

カルガモは留鳥であり、ほとんどの探鳥会で比較的簡単に見られます。今度チャンスがあったら、スコープにカルガモをとらえて、

とっくりと見てください。よく見れば、黄色のスポットの最先端に、更にほんの少しの黒い点が見えます。一般的には、黄色のスポットまでを観察すれば十分でしょうが、スコープの威力で、このような普通では気がつかない微小な点まで観察することができます。

和名のカルガモには、漢字で『輕鴨』を当てていますが、本当に軽いのでしょうか。また、学名の [*Anas poecilorhyncha*]は、鳥類学名辞典によれば、“斑点のあるくちばしをした鴨”とあり、やはり“Spot-billed”の英名と一致しています。

では、これからはカルガモを見るたびにくちばしの先端の黄色のスポットを確認して、“Spot-billed Duck”を覚えましょう。

秋の鳥情報

カイツブリ ◇9月24日、寄居町の円良田湖で夏羽、冬羽各2羽。冬は着実に近づいているんですね(中司隆由)。

ハジロカイツブリ ◇8月12日、戸田市道満貯水池で夏羽1羽。黄色い耳のイヤリングがかわいかった(二村英克)。

ゴイサギ ◇9月1日、幸手市木立の中川で幼鳥22羽以上(秋間利夫)。

ササゴイ ◇8月27日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。

アマサギ ◇8月2日、幸手市木立の中川で2羽(秋間利夫)。

ダイサギ ◇8月27日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇9月11日、川越市新鴨田排水畔で2羽(中司隆由)。

チュウサギ ◇8月27日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇9月11日、川越市新鴨田排水畔で4羽(中司隆由)。◇9月15日、浦和市、荒川寄りの塚本地区で4羽(中司隆由)。

アオサギ ◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。◇9月15日、志木市の新河岸河、いろは橋下流のアシ原に1羽下流より飛来(中司隆由)。

オシドリ ◇9月5日、戸田市道満貯水池で♀1羽(駒崎政雄)。

シマアジ ◇9月5日、戸田市道満貯水池で5羽(駒崎政雄)。9月18日、同所でコガモ群れ中に1羽(高橋達也)。9月20日、同所で13羽(駒崎政雄)。◇9月18日、本庄市の阪東大橋下流で5羽(井上幹男)。

トビ ◇9月20日、浦和市大崎の大崎公園で1羽(大森敬造)。

ツミ ◇9月12日、戸田市道満の釣り堀横の林で若鳥1羽。林から飛び立ち、その後しばらく上空高く飛んでいた(駒崎政雄)。

サシバ ◇9月6日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森上空で1羽(福井 亘)。

ハヤブサ ◇7月25日、戸田市道満貯水池上空で1羽。チョウゲンボウ1羽と飛ぶ(駒崎政雄)。

チゴハヤブサ ◇9月15日、大宮市大成1丁目の自宅付近で1羽。カラスに追われて消防署監視塔にとまり、30分ほど辺りを見回していた。上面は黒、首後部に白斑2ヶ。下面は白に太目の黒縦斑、脚付け根は赤茶色、翼先端は尾より長めだった(浅見健一)。

チョウゲンボウ ◇8月9日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。◇9月16日午後6時頃、羽生市街で1羽。コウモリを追いかけていた(漆原正浩)。

クイナ ◇9月25日、北本市の石戸宿自然学習センターの池で1羽。驚いてカルガモと一緒に飛ぶ(立岩恒久)。

タマシギ ◇9月2日、栗橋町狐塚の休耕田で2羽(秋間利夫)。

メダイチドリ ◇9月18日、深谷市の上武大橋下流で4羽(井上幹男)。

ムナグロ ◇8月3日、戸田市道満貯水池で3羽(駒崎政雄)。◇9月2日、栗橋町狐塚で7羽(秋間利夫)。

ダイゼン ◇9月24日、深谷市の上武大橋下流で2羽。本庄市の阪東大橋下流でも2羽(井上幹男)。

ケリ ◇9月18日午後4時、本庄市仁手の畑で1羽(井上幹男)。

キョウジョシギ ◇8月3日、戸田市道満貯水池上空で1羽(駒崎政雄)。

トウネン ◇9月7日、幸手市平須賀の休耕田で5羽(秋間利夫)。

ミユビシギ ◇8月3日、戸田市道満貯水池でコチドリ、トウネン群れ中に成鳥夏羽1羽(駒崎政雄、有山智樹)。写真なし。

オジロトウネン ◇8月3日、戸田市道満貯水池で1羽(駒崎政雄)。

ヒバリシギ ◇9月1日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

ウズラシギ ◇9月15日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

エリマキシギ ◇9月18日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

オバシギ ◇9月10日、本庄市の阪東大橋下流で幼鳥1羽(井上幹男)。

コアオアシシギ ◇8月3日、戸田市道満貯水池で2羽(駒崎政雄)。

- アオアシシギ ◇9月18日、深谷市の上武大橋下流で15羽(井上幹男)。
 ソリハシシギ ◇8月15日、戸田市道満貯水池で2羽(駒崎政雄)。
 アカエリヒレアシシギ ◇8月3日、戸田市道満貯水池で7羽(駒崎政雄)。8月12日、同所で1羽(二村英克)。
 ツバメチドリ ◇8月8日、戸田市道満貯水池で成鳥1羽(駒崎政雄)。
 アジサシ ◇8月29日、戸田市道満貯水池で1羽。9月5日、同所で1羽(駒崎政雄)。
 コアジサシ ◇8月12日、戸田市道満貯水池で4羽。ヒナが2羽飛ぶ(二村英克)。
 ツツドリ ◇9月6日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森及び秋ヶ瀬B区で各1羽(福井 亘)。
 ◇9月15日、川越市の入間川、笹井堰より約1キロ上流の雑木林で赤色型1羽(石井幸男)。
 ◇9月15日、桶川市鴨川2丁目の雑木林で1羽。尾羽を抜げていた(立岩恒久)。
 ◇9月17日、戸田市の戸田公園で赤色型1羽。赤色型は今年で3年連続、秋に当地で観察された(高橋達也)。
 カワセミ ◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。
 ◇9月20日、川口市差間の自然の家付近で1羽(大森敬造)。
 ショウドウツバメ ◇9月13日、杉戸町大島新田で30羽以上(秋間利夫)。
 ◇9月12~13日、戸田市道満貯水池で白化個体1羽。仲間に追われていた(駒崎政雄)。
 アリスイ ◇9月18日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。
 サンショウクイ ◇8月24日、秩父市美の山公園で1羽(山岸昭治)。
 モズ(高鳴き) ◇8月27日、朝霞市の黒目川、岡橋下流テニスコート横の雑木林で(二村英克)。
 ◇9月12日、上尾市の大宮ゴ



(コハクチョウ 杉戸町 佐藤啓威)

- ルフコースの桜の木のでっぺんで(立岩恒久)。
 ノビタキ ◇9月6日、浦和市秋ヶ瀬のB区で1羽(福井 亘)。
 ◇9月8日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。
 ツグミ(初認) ◇9月20日、富士見市の新河岸川右岸、伊佐島橋すぐ下流の河川敷で1羽(中司隆由)。
 コヨシキリ ◇9月15日、川越市の安比奈新田河川敷で1羽。声は聞けなかったが、姿をはっきりと見せてくれた(石井幸男)。
 オオヨシキリ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の荒川堤のアシ原から「ギョギョシ ギョギョシ」と聞こえてきた(立岩恒久)。
 メボソムシクイ ◇9月26日、戸田市の戸田公園で2羽。当地初記録(高橋達也)。
 センダイムシクイ ◇9月6日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井 亘)。
 エゾビタキ ◇9月18日、秩父市美の山で1羽(山岸昭治)。
 ◇9月25日、北本市石戸宿北側の枯れ木にとまって時々フライングキャッチをしていた(立岩恒久)。
 コサメビタキ ◇9月6日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(福井 亘)。
 ◇9月20日、大宮市大成で1羽(浅見健一)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1992 入選作

キンクロハジロ (ガンカモ科)

都会のカモはしたたかだ。厳しい冬を乗り越えるために、人の手から餌をもらう事を見た。それは生きるための術でもあるが、何百何千というカモが、人の与える餌に群がる光景は、どこか異常に感じる。

けれども、中には人に群れたがる仲間から離れ、葦の間を人目を避けるように泳いでいるものもいる。そのような姿を見ると、ほっとすると同時に、優しい言葉のひとつもかけたくなる。

中村 治(上福岡市)

行事あんない



本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：12月6日（日）

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口（集合後、バスで現地へ）

担当：町田、林（滋）、北川、小淵、小野沢、川島

見どころ：冬こそ阪東大橋へ！からっ風未経験の方々、お出かけ下さい。たくさんのカモ達も皆さんを待っています。カモン、ちょっと厚着でね。

越生町・麦原近辺探鳥会

期日：12月6日（日）

集合：午前9時15分 東武越生線越生駅前
交通：東武東上線川越8：05→坂戸で越生線乗換え、8：33→越生8：53着。集合後9：30発バスで現地へ。

担当：海老原、福井、佐久間

見どころ：ユズの色づいた山里を、エナガやルリビタキなどを探して歩きます。途中一カ所、急な登り坂あり。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月6日（日）

集合：午前9時20分 北本観察公園駐車場
交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗。午前8時45分ごろに駅にお越し下さい。

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、関口

見どころ：オオタカ、ノスリ、カワセミそしてかわいいカケスを期待。観察公園内

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

の池に来るカモも楽しみです。

浦和市・見沼ヘルシーロード探鳥会

期日：12月12日（土）

集合：午前9時 大崎事業所裏の芝生のグラウンド

交通：JR浦和駅西口1番バス乗り場より大崎園芸植物園行き8：18発またはさぎ山記念公園行き8：32発に乘車、大崎園芸植物園下車

担当：伊藤、楠見、草間、笠原

見どころ：初冬の見沼田んぼ。ツグミやジョウビタキたちが、元気にお出迎えします。

注意：「野鳥」誌11月号支部ホットラインのページに掲載されたバスの案内と若干違いがあります。当日は、リーダーがバス乗り場で待機しておりますので、安心してお出かけ下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：06発または秩父鉄道寄居9：03発に乘車

担当：菱沼（一）、森本、林（滋）、関口、菱沼（洋）、斉藤、塚本、中島（章）、川島

見どころ：ようこそコハクチョウ達。マガモ、オナガガモといっしょに遠い北国からやって来ました。こんな身近な場所で彼らに出会えるなんて、感激！

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月13日（日）
集合：午前9時10分 西武線西武球場前駅
交通：西武狭山線西所沢8：58→西武球場前
9：03着
担当：三田、石井（幸）、小野、佐久間、杉
本、山本、中村（祐）
見どころ：真っ白なカムリカイツブリと富
士の山。青い空にはオオタカが……と、
うまくいくかどうかは、あなたの心が
け次第です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月26日（土）午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局

野鳥写真クラブ定例会

とき：12月26日（土）午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月20日（日）
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅
東口（集合後、バスで現地へ）または、
午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、
田口、馬場、岡部
見どころ：お正月を控えしっとりとした見沼
の里を訪ねて。歌舞伎役者のようなタ
ゲリ、年々多くなるカモたちのきれい
な姿がみられます。枯れ枝ではモズが
鳴き、ツグミは地面でミミズ堀り。1
年の締めを三室でどうぞ。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月20日（日）
集合：午前10時 森林公園南口
交通：東武東上線森林公園駅より森林公園南
口行き9：42発バスに乘車、終点下車。
費用：入園料370円（子供80円）
担当：森本、榎本、内藤、林（滋）、吉原、
菱沼、立岩、関口

見どころ：ひそかな音を求めて。じっと耳を
澄まして、カラやキクイタダキのささ
やきを聴く。落葉をかきわける音でシ
ロハラを探す。

年末講演会

期日：12月23日（水）午後2時～4時
会場：浦和市民会館 706号室（浦和駅西口か
ら県庁通りを県庁方向に進み、埼玉会
館角右折、玉蔵院と裏門通りを通り越
した左側、徒歩約10分）
講師：藤本和典（ナチュラリスト）
タイトル：世界の鳥とそれをとりにく自然
テレビなどで活躍中の藤本氏が、コス
タリカや東南アジアで撮影した野鳥の
スライドをもとに、環境問題への熱い
思いを語ります。講演終了後は、支部
事務局での恒例親睦会も予定。どうぞ
お集まり下さい。

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：平成5年1月3日（日）
集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗り場から中野田
引返場行き乗車、上野田下車／浦和駅
西口1番バス乗り場からさぎ山記念公
園行き乗車、終点下車。当日は正月臨
時ダイヤ、一時間に2～3本運行され
ます。
担当：海老原、松井、楠見、藤原、馬場、工
藤、桜庭、新堂
見どころ：やぶのホオジロ類や田んぼのタゲ
リ、上空のチョウゲンボウに新年のあ
いさつをした後は、日だまりに集まっ
て、持ち寄った酒や手料理で軽く乾杯。
1年に1度、この日だけはお酒持参
OK。バス利用をお勧めします。

伊豆沼探鳥会：平成5年1月9日（土）～10
日（日）、銚子港探鳥会：平成5年1月30日
（土）～31日（日）、ただいま参加者を募集
中です。先月号9ページをご覧のうえ、ふるっ
てご応募を。先着順（支部会員優先）ですの
で、お早めに。

行事報告



■9月20日(日) 浦和市 三室地区

⊖ 64人 天気 快晴 鳥 カイツブリ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ バン サシバ トビ タカブシギ イソシギ タシギ シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 朝から素晴らしい秋晴れで、たくさんの参加者が黄金色の見沼田圃を歩きました。晴れ渡った空にサシバが翼を広げました。芝川に久しぶりにアオサギの“グレイヘロン”英名そのままの姿が見られ、ダイサギ、チュウサギ、コサギと楽しませてくれました。風は気持ちよく吹き、サルスベリのピンクの花が揺れ、ススキが代用水の少なくなった水に立っていました。コガモたちも、北の国から戻ってきて、三室の里に秋が訪れるのです。(楠見邦博)

■9月23日(水、休) 寄居町 鐘撞堂山

⊖ 80人 天気 晴 鳥 ダイサギ コサギ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ サシバ コジュケイ キジバト アマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エソビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) まずまずの天気とたくさんの参加者で秋の探鳥会を楽しんだ。途中、大正池ではカワセミも出現し、大サービス。山頂では、サシバやノスリ、オオタカなどが見られた。参加者の帽子に止まったキアゲハやトンボも印象に残った。

(林 滋)

■9月23日(水、休) 浦和市 秋ヶ瀬

⊖ 40人 天気 晴 鳥 ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ タシギ キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ コサメビタキ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 秋の太陽を全身に浴びて、サギの識別をしたり、ノビタキをじっくり見たり、彼岸花の勉強も。ご先祖様ご免なさい。(福井恒人)

■9月27日(日) 狭山市 入間川

⊖ 13人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ カルガモ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) 今日の探鳥会で主役を務めてくれる予定だったコガモはとうとう現れてくれませんでした。「また今年も彼らの季節になったんだなあ」と半年ぶりの再会を楽しみにしていた人には、本当にごめんなさい。すでに県内各地では見られているのですが、ここ入間川でも観察されているのですが、定着するにはまだ少し早い様子。コガモの代りに主役となったのは、稲荷山公園でエゴノキに現れた愛嬌たっぷりのヤマガラでしょうか。クイモ、ミズヒキ、ヒガンバナなど秋の草花が鳥の少なさをカバーしてくれた探鳥会でした。(長谷部謙二)

■10月4日(日) 川口市 差間

⊖ 25人 天気 晴 鳥 カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ コジ

ユケイ タシギ キジバト ヒバリ ツバメ
 キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
 セッカ キビタキ コサメビタキ シジュウ
 カラ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケ
 ス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラ
 ス (29種) さわやかな秋の探鳥会を期待した
 のですが、朝から蒸暑い夏に逆戻りの1日。
 でも、さすがに秋の渡りの時期らしく、通船
 堀にはコサメビタキ、さかい橋付近にはキビ
 タキが立ち寄りてくれていた。これから南の
 国への長い渡りが始まる。無事に越冬地に着
 いてもらいたいものです。(手塚正義)

■10月10～11日(土、日) 愛知県 伊良湖岬

⊖ 32人 天気 晴 鳥 カイツブリ カン
 ムリカイツブリ オオミズナギドリ カワウ
 ウミウ ダイサギ コサギ アオサギ マガ
 モ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガ
 ガモ ハシビロガモ スズガモ ミサゴ ハ
 チクマ トビ オオタカ ツミ ノスリ サ
 シバ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ
 コジュケイ シロチドリ ムナグロ ダイゼ
 ン ケリ イソシギ タシギ セグロカモメ
 ウミネコ キジバト アオバト アマツバメ
 コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ
 コシアカツバメ キセキレイ ハクセキレイ
 セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ
 ノビタキ イソヒヨドリ エソビタキ コサ
 メビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
 (62種) こればかりはお天気次第! 幸いにも
 参加者32名の常日頃の心掛け宜しきを得て、
 今シーズン最高のサシバが1日 801羽通過と



言う幸運に恵まれた。伊良湖岬は初めてとい
 う人たちになんとかして、あのタカ柱の感激
 を!との願いは天に通じた。多謝。新幹線
 の利用は、時間の短縮に有効だった。全員大満
 足、ニコニコで帰着。(松井昭吾)

■10月11日(日) 熊谷市 大麻生

⊖ 48人 天気 曇 鳥 カイツブリ ダイ
 サギ コサギ マガモ カルガモ トビ オ
 オタカ アオアシシギ イソシギ キジバト
 コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ
 イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セ
 グロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ
 ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 カケス オナガ ハシボソガラス ハシブト
 ガラス (33種) 久しぶりに野鳥の森から旧押
 切橋へのコースを歩いた。野鳥の森への畑で
 は、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキ
 レイの三役そろい踏み。その中に、ほとんど
 真っ白な白化個体がいた。顔がほんのりと黄
 色いことから、ハクセキレイの若鳥と思われ
 る。すっかり秋景色の河原を歩くと、あちこ
 ちでノビタキやモズの姿が見られた。初めて
 のポイントでは、大麻生では珍しいアオアシ
 シギを全員で観察。鳥合わせ後、弁当を食べ
 ているとカワセミ君が登場。(菱沼一充)

■10月25日(日) 川越市 西川越

⊖ 43人 天気 曇 鳥 ダイサギ コサギ
 マガモ カルガモ コガモ オオタカ ハイ
 タカ コジュケイ キジ イカルチドリ タ
 ゲリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバ
 リ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
 レイ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウ
 カラ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ
 ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス
 ハシブトガラス (31種) 前夜の雨も上がつて
 暖かい1日。まずはキジが皆の頭上を飛び、
 入間川ではカワセミが2度3度とダイビング
 をした後で近くの木に止まって、もういいと
 言う位見せてくれ、最後にはなんと前日まで
 はいなかったタゲリが23羽も田圃にいて、参
 加者に群舞を見せてくれた。(佐久間博文)

連絡帳

バードソンご支援にお礼

11月1日に開催されたバードソンへのご支援、ありがとうございました。

なかでも、松井支部長の参加した「黒田会長カラス組」の探鳥会は、チームメンバーと本部職員以外の応援参加は、ほとんどが埼玉県支部会員。昼頃までに26種を確認して、にぎやかに終了しました。

全国の募金申込額は目標の2,000万円を上回る勢い。バードソン事務局から、応援したチームの結果報告とご送金のお願いはもう届きましたか。よろしくお祈りします。

『日本野鳥の会の理念と活動』

全国の評議員・支部役員・会員の意見を結集し、理事会と常務会で繰り返し検討が続けられていた『日本野鳥の会の理念と活動』がまとまり、印刷も終了しました。50余年の歴史の中で築き上げられた考え方をまとめ、今後の会の活動の基本を明示するもので、重要な役割をはたします。

ご希望の方は、1冊につき62円切手5枚を同封して、150 渋谷区渋谷1-1-4 青山フラワービル5F(財)日本野鳥の会総務部理念係までお申し込みください。

県・野生の生きもの写真コンクール

県でも毎年野生の生きもの写真コンクールを開催しています。1番の写真は当支部のネイチャーフォトコンテストに、2番目の写真は県のコンテストにどうぞ。

主催：埼玉県 応募資格：県内在住・通勤通学者 テーマ：県内で撮影された①野鳥②哺乳類③昆虫④植物⑤その他 規格：カラー6つ白黒4つ、被写体名・撮影日時・場所・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して裏面に貼付 募集期間：来年1月29日まで 送付・問合せ先：336 浦和市高砂3-15-1埼玉県環境部自然保護課(048-824-2111 内2424)

12月の土曜日当番(2時~6時)

- 5日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)
- 12日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 19日 森本國夫 高草木泰行
- 26日 袋づめの会(1時から)

ご寄付にお礼

小野光明 2,000円、神山和一郎 2,000円、小林みどり・洋一 7,405円、田村62円切手40枚、手塚正義 4,100円、保坂達司10,000円、吉田佳代 2,000円、リーダー研修会懇親会 1,195円。ありがとうございました。(50音順、敬称略)

会員数は

11月2日現在 1,991人です

活動報告

10月3日 普及部会議(3月までの探鳥会の予定など)。

10月3日 『県北見て歩き』第1回編集会議。

10月13日 埼玉新聞に支部コンテスト入選作の連載打ち合わせ。入稿。11月4日連載開始。

10月17日 『しらこぼと』編集会議。

10月18日 役員会議(司会・伊藤芳晴、探鳥会予定・パネル展実施体制・その他)。



最近、あまり酒を飲んでいないので調子がいい。ついでに、米発酵入浴剤などをつかうと結構これが調子いい……。

家の娘もそろそろ1才になろうとしている。朝起きてから夜寝るまでは、かわいいのだが、夜泣きがすごい。このところ少々寝不足気味である。

おまえに似たんだと親に言われ、両親の苦勞を実感する今日この頃です。

(藤原寛治)

『しらこぼと』1992年12月号(第103号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)